

コロナウイルスによる影響で今年は、全国大会が開催できないかと思っておりましたが、皆さんの熱意とご協力により、大会ができる運びとなり大変うれしく思っております。今回は、パンフレットのページをご提供いただけましたので、全日本学生ヨット個人選手権大会について紹介させていただきます。

●今年の大会について

今年の大会は、11月27日（金）～11月29日（日）（レースは土日、6レース）豊田自動織機 海陽ヨットハーバーにて470クラス55艇 スナイプクラス55艇（シングルハンドは募集中）の選手を迎え開催します。選手は、申込期間中のため確定ではありませんが、各水域予選上位選手について別表にて紹介させていただきます。今年は、11月の蒲郡開催となるため、いつもの個人戦と異なった雰囲気が楽しめると思っております。その一つが、西の強風です！いつもの9月開催ならば、夏の風（南西）となる



ことが多く、それほど強風下ではないのですが、11月は、西の強風がよく吹き荒れます。この西の風を攻略することが、勝つには必要になります。また、コロナウイルス感染予防対策を考慮した大会運営を計画しており、リモート機能を取り入れたスマート大会となると思います。私たち運営スタッフも新たな大会開催方法に向けて万全の準備をしておりますので、ご協力をお願いいたします。

●大会が開設された経緯

この大会が開催されるようになった経緯を紹介させていただきます。この大会は、1995年から開催されている大会で、それまでも全日本学生ヨット選手権大会に組み込まれて開催されていたのですが、当時の全日本学生ヨット連盟小澤会長が、「個人枠で全日本大会に出場できたにも関わらず、盛り上がり欠ける面がある」との指摘から、個人と団体を分けることになりました。また、大学ヨットにも甲子園的存在の場所が求められており、1994年に開催された愛知国体にあわせ建設された海陽ヨットハーバーが選ばれました。このハーバーは、日本でも屈指の設備を誇り、国体直後であり大会運営スタッフも充実しており、何より日本の中心にあるということから、中部学生ヨット連盟が大会を引き受け、今に至っています。併設して開催されるシングルハンドレガッタは、大学ヨット部として全日本大会への出場を目指したくても人数が揃わず、諦める選手への対策として設立されたのが始まりで、ヨットも大会側が準備することで、手軽に参加できるよう配慮がされた大会です。普及の観点が大きな大会ですが、近年は、インターハイや国体にもレーザーラジアルが採用されたこともあり、出場選手のレベル向上や参加人数の増加傾向にあります。最近では、レーザーラジアルを採用したこともあり、選手は扱いやすく参加者増加の要因にもなっているのではないかと考えております。



大会まで1カ月を切っております。万全の態勢で皆さまをお迎えできるよう中部学生ヨット連盟一丸となり準備してまいります。皆様と海陽ヨットハーバーでお会いするのを楽しみにしております。